

- 1 日時 平成28年7月27日（水） 13:00～16:00
- 2 会場 奈良県産業会館（大和高田市幸町2-33）
- 3 参加者 70人（教職員、地域コーディネーター、行政職員等）
- 4 内容
 - 13:00～ 13:05 開会挨拶
 - 13:05～ 13:30 セミナー
「地域と共にある学校づくり」について
人権・地域教育課 畑守 伸昭
 - 13:30～ 14:30 講演
「すべての子どもたちの育ちを支える
学校・家庭・地域の協働とは」
京都造形芸術大学 専任講師 濱元 伸彦
 - 14:40～ 15:50 ワークショップ熟議
 - 15:50～ 16:00 閉会

5 講演概要

◇池田寛「教育コミュニティ論」

〈1990年代〉高度経済成長以降の社会変化の中、学校・家庭・地域の分断→学校・家庭の孤立化、子どもの共生感覚・自尊感情の低下

⇒教育コミュニティづくりの必要性を訴える

◇地域でのさまざまなコーディネーターとの出会い

- ・コーディネーターの思い…自身の子どもの頃のおもしろい体験を今の子どもにも味わわせたい。自身の子どもの頃のような地域のつながりを復活させたい。

◇二つの公園（雑草が生い茂る公園と手入れされた公園）の写真から考える…その違いは？

→その場所を大事にしようとする地域の人の存在の有無…等

◇学校と地域の協働とは？

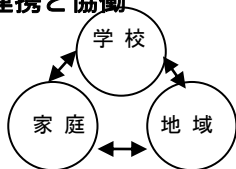
- ・学校と地域社会が深いレベルでつながり、それぞれが分離した状態では得られない教育力を発揮していくこと

子どもの育ちを支える力

◇大阪府のある中学校で感じた「地域の教育力」とは？

- ・子どもがエンパワーされる活気のある地域
- ・大人の「生きている姿」が見える商店街・小中学校と地域との活発な連携
- ・校区フェスタや地域主催の様々な活動

◇連携と協働



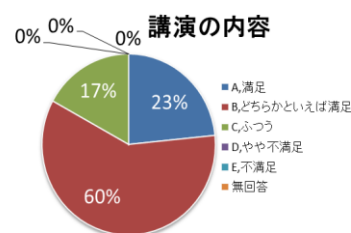
連携＝分業
それぞれ違った見方・関わり方で担いようとする



協働
子どもの見方・関わり方を共有しようとする

○子どもの「見守られ感覚」
○自己肯定感・共生感

子どもの育ちに不可欠な栄養素



◇コーディネーターの役割

- ・自由闊達に意見を交換し合える関係で、コーディネート具体的な場面で「共にアクション」
- ・「参加してよかった」と思える「声かけ」「仕掛け」、協働の意味・価値を広める「語り」

◇学校と地域の「協働」のためのキーワード

- ・「見守られ感」（包み込まれ感）を育む
- ・気持ちを「伝え合う」→「共感性」の育成
- ・子どもへの「見方・関わり方」を「分かち合う」

6 感想

・子どもの心の中に地域があることが、子どもの成長にとって大切であるということが再確認できました。

・（ワークショップでは）教職員だけでは思いつけない視点を出し合うことができ、今後の熟議の参考になりました。